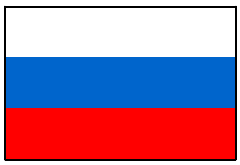
# 帰国報告（派遣期間：2001 年 4 月～ 2004 年 3 月）

派遣校：在ロシア日本国大使館付属モスクワ日本人学校
札幌市立真駒内曙小学校　教諭　　箭内　浩之



Ⅰ．ロシア及びモスクワの概要
【ロシア連邦基礎データ】
［国　名］ロシア連邦(Russian Federation)
１．面　積　　日本の約４５倍（約１，７０７万ｋ㎡）
２．人　口　　１億４，５５０万人（2002 年 10 月国勢調査）
３．首　都　　モスクワ
４．言　語　　ロシア語が公用語（１００以上の言語がある）
５．民族構成　多民族国家（ロシア人…８１％、タタール人…４％、ウクライナ人…３％、その他多数）
６．宗　教　　ロシア正教が優勢。その他にイスラム教、ユダヤ教、仏教など多数。
７．政治体制　共和制、連邦制（共和国、州、都市など 89 の構成主体からなる連邦国家）
○元首…大統領（任期４年、２期までの再選可）
（現）ウラジーミル・ウラジーミロヴィチ・プーチン
１９９９年 12 月　大統領代行に就任
２０００年 ５月　ロシア大統領に就任
２００４年 ３月　大統領に二選

**（経歴）**
ＫＧＢ～レニングラード大学学長補佐～レニングラード市（現サンクトペテルブルグ市）行政府～ロシア大統領府（大統領府総務局副局長→大統領府副長官→大統領府第一副長官）→ロシア首相

○議会…連邦院（上院）と国家院（下院）の 2 院からなるロシア連邦議会
連邦院（定数 178：連邦構成主体の行政及び立法機関の代表各 1 名）
国家院（定数 450、任期 4 年：小選挙区と比例代表選挙制により半数ずつ選出）
○政府…首相　ミハイル・エフィーモヴィチ・フラトコフ
外相　セルゲイ・ヴィクトロヴィチ・ラヴロフ
８．内政近況
プーチン大統領は、「強い国家」の建設を政策目標に掲げて、国家権力を強化するべく種々の政策を実施。エリツィン大統領時代に政治的混乱の要因となっていた議会勢力、知事等の地方エリート、財閥等を抑え、政治的安定を達成。その背景には、70 ％以上の支持率を維持するプーチン大統領の個人的人気の高さとロシア経済の好調がある。
昨年、ホドルコフスキー「ユコス社」社長逮捕事件に関連し政権内のエリート・グループ間の権力闘争が指摘されるなど流動化の傾向も見られたが、これも抑えられ、その後の昨年 12 月の国家院（下院）選挙では与党「統一ロシア」党が圧勝し、その後の議会では 3 分の 2（306 議席）を確保。04 年に入り、2 月にカシヤノフ首相を解任し、3 月には対外経済分野での経験が豊富なフラトコフ前 EU 大使を首相に任命し、閣僚を半数近くに減らす大幅な機構改編を断行。更に、プーチン大統領は、3 月 14 日の大統領選挙で 70 ％以上の得票を得て再選され、任期二期目における自らの政治的基盤を盤石なものにした。
ロシア連邦から独立を求めるチェチェン共和国の問題は、プーチン大統領にとって内政上の最重要課題の 1 つ。同共和国では、これまで 2 度にわたり大規模な武力衝突を伴う紛争が起こり、現在も同共和国とその周辺地域では武力衝突が続いているほか、02 年 10 月のモスクワでの劇場占拠事件などに象徴されるような、一般市民を巻き込んだテロ行為も続いている。連邦政府は、状況の打開を図るため、03 年 3 月に住民投票によって同共和国の新憲法（同共和国をロシア連邦内の構成主体と位置づけている）を採択。右新憲法に基づき 03 年 10 月に行われた同共和国選挙で選出されたカディロフ大統領を中心に共和国の新体制作りが進められていたが、04 年 5 月 9 日の爆弾テロによって当の大統領が殺害された他、6 月には隣接するイングーシ共和国において武装勢力による治安機関への攻撃が行われ、約 90 人の死者をだすなど不安定な状況が続いている。また、04 年 8 月末に実施された同共和国大統領選挙直前には、ロシア旅客機２機の同時爆破テロが、直後にはモスクワで自爆テロが起こった。さらに、９月には北オセチア共和国・ベスランで学校占拠事件が起こり、子供を中心に多くの犠牲者を出すなど、情勢は泥沼化の様相を呈している。

９．経済

○主要産業…鉱業（石油、天然ガス、石炭、鉄鉱石、金、ダイヤモンド等）、鉄鋼業、
機械工業、化学工業、繊維工業

○経済成長率…＋ 1.4 %（97 年）、▲ 5.3 %（98 年）、＋ 6.4 %（99 年）、＋ 10.0 %（00 年）、
+5.0 %（01 年）、+4.7 %（02 年）、+7.3 %（03 年）

○経済状況

ソ連解体後、92 年 1 月から市場経済に向けた急進的な経済改革が開始されたが、ハイパー・インフレに見舞われるなど多くの問題が生じ、生産も大きく落ち込んだ。その後、97 年に至って回復の兆しが見られたものの、98 年 8 月には金融危機が発生し、経済は大きな打撃を受けた。しかし、99 年には国際石油価格が高騰したことやルーブル切り下げ効果により輸入代替産業が復調したこと等を背景に経済は成長に転じ、2000 年には 10 %と近年にない高い成長を記録。その後も、主として石油価格の高値安定を背景に概ね経済の好調が続き、昨年は 7.3 %と再び高い成長を記録。この勢いは本年に入っても持続しており 1 ～ 3 月の GDP 伸び率は対前年同期比で 7.4 %。なお、プーチン大統領は昨年 5 月の年次教書演説の中で今後 10 年間に国内総生産を倍増する目標を表明し、本年の教書演説でもこれを確認している。

現在のロシア経済の最重要課題は、エネルギー資源に大きく依存した現在の経済構造の抜本的改革。プーチン大統領は就任以降、土地法や労働法等々改革に必要な一連の法律等を着々と整備しているが、今のところそれらの実施は充分ではない。今後それらの法律等がどのように実施され、機能するかという点が重要。

【略史】

| | |
|---|---|
| （９世紀） | ノルマン人の首長リューリックがノヴゴロドに来て、「ルーシの国」を建てる。 |
| （１３世紀） | モンゴルの支配を受けたが、やがてモスクワ大公国が台頭。 |
| （１５世紀） | イワン雷帝の時にモンゴル支配を克服。雷帝の死後、動乱時代を経てロマノフ朝成立。ピョートル大帝（1682 年即位）の時代にロシア帝国の基礎が築かれる。 |
| １９１７年 | ２月の革命により崩壊。10 月の革命でレーニン率いるボリシェヴィキがソビエト政権を樹立。 |
| １９２２年 | 周辺諸国を加えてソビエト連邦が成立。<br>以後、スターリン、フルシチョフ、ブレジネフ、アンドロポフ、チェルネンコと指導者が交替。 |
| **１９８５年 3月** | **チェルネンコ・ソ連共産党書記長死去、後任にゴルバチョフ就任** |
| ８６年 4月 | チェルノブイリ原発事故 |
| 6月 | 節酒法を施行（ゴルバチョフに対する国民の不満が高まる） |
| ８９年 12 月 | マルタで米ソ首脳会談…冷戦終結を宣言<br>東西ドイツを隔てていた「ベルリンの壁」の崩壊、ルーマニア大統領チャウシェスクの処刑など、民主化への動きが活発化し、ソ連共産党の独裁体制の崩壊も決定的となっていた。 |
| **９０年 3月** | **ソ連人民代議員大会、ゴルバチョフをソ連大統領に選出** |
| ９１年 6月 | エリツィン、直接選挙でロシア共和国大統領に当選 |
| 8月 | ソ連保守党がクーデター<br>ヤナーエフ副大統領、クリュチコフＫＧＢ議長、ヤゾフ国防相ら新連邦条約に反対する保守派が、夏季休暇中のゴルバチョフを軟禁してクーデターを決行。ロシア共和国大統領エリツィンが軍幹部らに根回しを行うとともにホワイトハウス周辺で国民向けに演説。クーデターを３日で鎮圧する。<br>ゴルバチョフへの不信感とエリツィン人気が顕著となる。<br>ゴルバチョフ、ソ連共産党の活動停止を宣言。<br>バルト三国（リトアニア、ラトビア、エストニア）がソ連から独立 |
| 9月 | **ロシア、ウクライナ、ベラルーシ首脳、独立国家共同体（ＣＩＳ）発足を宣言** |
| 12 **月** | **ゴルバチョフ大統領辞任、ソ連が消滅**<br>**エリツィンがロシア連邦大統領に任命される。** |

１９９２年 １月　ロシアで価格自由化が始動。基礎物資・サービス（パンや牛乳、乳製品、砂糖、光熱費、ガソリンなど市民生活に影響度が高いもの）以外の物の価格統制が撤廃される。価格は３～５倍程度に引き上げられるがその後も価格はうなぎのぼりとなる。（年間物価上昇率が約２６倍というハイパー・インフレとなった。）議会が政府を批判し、両者の対立が起こる。
寡占資本家の台頭…インフレを利用した増資。
９３年 10 月　モスクワの騒乱
※エリツィン大統領は、９月に人民代議員大会と最高会議を一方的に廃止し、二院政の新議会を設置。議会は反発し、議会と政府の緊張が高まる。10 月、議会派がホワイトハウス、国営テレビ局などを占拠。議会を支持する保守派勢力と治安部隊の衝突が激化し、市街戦にまで発展。エリツィンは戦車部隊を投入し、保守派が立てこもるホワイトハウスを砲撃する。議会派の抵抗は鎮圧される。
９４年 12 月　ロシア軍が独立を主張するチェチェン共和国に進攻**（第一次チェチェン紛争）**
９５年 12 月　議会選でロシア共産党が第一党になる
９６年 ７月　大統領選挙で、エリツィンがジュガノフを破り再選を果たす
９７年 11 月　クラスノヤルスクで日ロ非公式首脳会談
９８年 ４月　川奈で日ロ非公式首脳会談
８月　ロシア金融危機…ルーブル（ロシアの通貨）切り下げなど緊急危機対策発表。
キリエンコ首相解任、後任にプリマコフ
９９年 ５月　プリマコフ首相解任、後任にステパシン
８月　ステパシン首相解任、後任にプーチン
チェチェン人によるダゲスタン共和国一部占拠事件（？）とモスクワ市内での連続アパート爆破事件。チェチェンへの大規模空爆**（第二次チェチェン紛争）**
12 月　エリツィン大統領辞任、代行にプーチン
２０００年 ５月　プーチン大統領就任

派遣期間中（2001 年 4 月～ 2004 年 3 月）に起こった大きな事件
０２年　サッカー日韓ワールドカップ（日本 vs ロシア戦）後に市内中心部で暴動発生
※サッカーファンの暴動というよりは、フーリガンによる扇動と見られる。
市街地での極東地区議員狙撃事件
チェチェン人による劇場占拠事件…多数の市民が巻き添えになった。
０３年　屋外コンサート会場での自爆テロ事件
議会選挙に対する抗議とみられる市内中心部での自爆テロ事件
娯楽施設（温水プール）の天井崩落事故
０４年　地下鉄テロ事件…多数の死者、負傷者を出した。
クレムリン近隣施設の火災（大統領選挙当日）
※この他に、邦人が巻き込まれた事件の報告は多数ある。

現在、自由市場経済が浸透してきて、物流も良くなり品不足で困ると言うことはまずない。モスクワ市内には、多くのショッピングモールが増え、週末は多くの買い物客でにぎわっている。欧米の企業の進出の増加なども手伝って店員の愛想もかなりよくなってきた。日本食もかなり手にはいるようになってきている。（ただし、価格は日本の４倍～５倍程度）日本食もブームで、日本食レストランの数もどんどん増えている。１００円ショップ（ロシアでの価格は２００円相当）や日本のキャラクターショップも開店。日本アニメのＶＴＲやＤＶＤも出回っている。

ソ連崩壊時に起こったマフィアの抗争も落ち着き、一般市民に被害が及ぶということも表面的にはあまり聞かない。

現大統領は、「強いロシア」をスローガンに掲げ、国内改革に着手している。政治や経済、外交面などにおいて安定化が見られ、モスクワ市民の多くは豊かな生活を手に入れつつあるように見える。旧ソ連崩壊時、「新ロシア人」と呼ばれた一握りの富欲層と貧困層に２分されていたが、近年中産階級層の増加が著しく、現在の消費経済をリードしている。ただし、貧困にあえぐ人たちの暮らしは改善されていないのも現状。また、モスクワ以外の地方は苦しい状況にあるとも言える。

# ロシアの教育制度について

## ソ連時代の教育

イデオロギー、政治の面が強かった。
教科書及び教育制度は統一され、強く支持されていた。
学校は１０年制（３・５・２制）

⇩

※１９８０年代半ば…国が変わり、教育制度も変わった。

## ロシアの教育

基本的に１１年制（４・５・２制）
ただし新たな試みとして１２年制を試行している学校もある。

| | | |
|---|---|---|
| 大　学 | 就　　職 | |
| 高校　１０～１１年 | 専門学校 | |
| 中学校　５～９年 | | 義務教育９年間(100%の就学) |
| 小学校　１～４年 | | |

※ソ連時代には統一されていたプログラムも、現在はモスクワ局で確認されれば独自のものでよいことになっている。

〇教育制度もいくつか新しい物ができてきた。
・ギムナジューム　…優秀な子を集めたクラス（５～１１年)。理科や英語などで特殊教育を行う。
・リツェイ　…優秀な子を集めたクラス。
・インテルナトゥイ　…障害児や両親のいない子が通う学校。月曜日に登校し、金曜日に下校する。
・家に教師に来てもらう制度もある。インテルナトゥイを好まない場合なども利用している。試験で次の級へ進む。南西地区には１校（３７０番校）がある。
・エクストラナトゥイ…大学に入るために必要な教育を受ける。高校の２年分（１０年生・１１年生）の学習を１年で受ける。南西地区には２校（１９９番校・２６番校）ある。
外国（含む日本人学校）で教育を受けた子の場合、ここで試験を受けるとロシアの学校の卒業資格を得ることも可能。
・ディスタントナヤ　…コンピュータで必要な情報をもらう。試験も受信できる。
※上のような特殊教育を受けていても、一般の学校に籍がある。

また、以前はロシア人学校のみであった学校も、現在では日本人学校や中国人学校のような外国人学校も数多くできた。

〇専門学校の種類
・カレッジ　…幼稚園スタッフなどの職に就ける
・ツェフニホ（技術）　…教員などの職に就ける
・プロフェッショナル（専門）…運転手などの職に就ける
※中学の成績で、５段階中３くらいの生徒が進む。
成績にかかわっては、２を２つとったら落第する（小学１年はない)。そうならないように、学習が不十分な生徒に対して特別なプログラムを組むことがある。
１１～１３歳位が出席率が悪いという実態がある。（ただし、試験の成績が悪くならないように考えて、授業は受けている。）

※中学卒業時には４つの試験が行われる。（義務…３＋選択…１）
　高校卒業時には５つの試験が行われる。（義務…４＋選択…１）
　　義務…ロシア語の論文、文学、幾何学、代数（文学と幾何学は口頭による）
　　選択…体育、歴史、地理、など多岐の中から
　現在、高校卒業試験と大学入試を一緒にした統一試験が実施できないか検討中。

○モスクワの基本的な教育計画
【授業時数】
　　１年生　…（週５日）　２０時間以内の学習…一般的
　　（週６日）　２２時間以内の学習…外国語を学習する所など
　２～４年生　…　２８時間（週５日）～３０時間（週６日）
中学（５～９年）　…　２８～３０時間／週
高校（10 年・11 年）…　３３～３６時間／週
　　※他に５～７時間は選択できる。

・１年生以外の学年には落第制度がある。成績（５段階）で２を２つ取ったら落第。
　なお、特別プログラムで落第を防ぐようにする。
　１１～１３歳ぐらいの年代が授業の出席率が悪いので、１３歳から特別な学校も設けている。

・一般に、１日の活動は４時間の学習＋１～２時間の選択学習。他に、有料のサークルなどもある。また、他の学校に行くことも可能。（１日：８時～１８時までの活動）
　　※サークルの指導者は
　　・教員…無償
　　・講師…有償

【教科】
○ロシア語　○文学　○数学（幾何学・代数）　○外国語　○法律　○経済
○ロシア・ソ連の歴史　○コンピュータ　○技術・家庭　○自然（１年～）
○地理（５年～）　○モスクワについて（１年～）　○生活の保険［知恵］
○危機対応　○体育　○音楽（１年～）　○絵画　○世界の文化　○化学
○物理（８年～）　○生物
　　※人気にある外国語は英語とドイツ語

【教員の動向と手当】
○小学校（１～４年）の教員　…２０時間の授業／週あたり
○中学・高校の教員（５～１１年）…１８時間／週
※以上の時間は義務だが、他に選択の授業ももつ。なお、仕事は授業にとき以外は拘束されない。

・統一給料計画
　　新卒で　８～９級　…　１６００ルーブル
　　⋮
　　１４級　…　３２００ルーブル

　週１８時間の授業をもつことを基準にして
　　・能率給…＋３０～５０％
　　・担任給
　　・学習ノートチェック給
　　・特別教室用具管理手当　　などの手当もある　（2002 年）

　　※情報提供：教育法センター副ディレクトル　マリーナ・ニコラーエフナさん

# モスクワ日本人学校での実践

１．モスクワ日本人学校の概要

**学校教育目標**

（１）豊かな心をもち、知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成
（２）自ら学ぶ意欲をもち、たくましく個性的な児童・生徒の育成
（３）異なる文化を体験することにより、日本の文化と伝統をより深く尊重することのできる児童・生徒の育成

**めざす子ども像**

○意欲を持って学ぶ子（知）
・学習の仕方を身につけ、主体的に学ぶ子ども
・操作や体験的な活動を通して自分なりの考えをもつ子ども
・自分の考えを表現しながら友達と考えを深める子ども
○仲良く助け合う子（徳）
・自分のことは自分できちんとできる子ども
・誰とでも進んで仲良くし、相手の立場を思いやる子ども
・集団の一員としての責任を果たす子ども
○丈夫で元気な子（体）
・生命の尊さがわかる子ども
・体を鍛え、進んで健康に心がける子ども
・最後までやりぬこうとする強い意志と心をもつ子ども
○モスクワでの生活を豊かにする子（国際理解）
・モスクワのすばらしさを自ら学び、体験することに喜びをもつ子ども
・異なった文化・生活環境をもつ外国の子どもと積極的に交流する子ども
・外国語に興味・関心をもち、意欲的に取り組む子ども

**教育環境のコンセンサス**

教職員は、常に子ども理解に努め、社会の変化に主体的に対応し、自ら学ぶ力の育成を図り、めざす子ども像を達成するために、小・中一貫教育の環境を構築することに主眼をおく。また、日本人学校がモスクワの教育センターとして信頼を得るよう、資質の向上や研修に努める。

（１）学校は子どものためにあり、子どもの「生きる力」をはぐくむ教育活動に邁進する。
・学校が楽しい、勉強が楽しい、友達がいるから楽しい、そのような学校づくり、学級づくりに努める。
（２）教育相談の研究を生かし、育てるカウンセリング・ライフスキル教育の視点に立ち、教育活動を展開する。
・教育相談の研修を深める。
・子どもの思いを理解し、子どもの成長を支援する。
・授業を通して子どもの変容と成長を支援する。
（３）豊かな心の育成に努め、体験的活動や問題解決的な活動を重視した指導を展開する。
・自然・文化・技術等の生活体験や問題解決学習等、感動体験・自己実現体験を通して、自ら学ぶ意欲と主体的な学習の姿勢を身につけさせる。
（４）国際理解教育を推進し、世界の平和と人類の幸福に寄与する教育活動を展開する。

☆児童生徒数と週授業時数（2003 年 4 月 30 日現在）

| | 小１ | 小２ | 小３ | 小４ | 小５ | 小６ | 中１ | 中２ | 中３ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 児童生徒数 | １３ | 9 | １３ | １４ | １０ | 9 | 5 | 6 | 7 |
| 週授業時数 | ２６ | ２８ | ３０ | ３０ | ３０ | ３０ | ３０ | ３０ | ３０ |
| **文科省標準時数** | **２３** | **２４** | **２６** | **２７** | **２７** | **２７** | **２８** | **２８** | **２８** |

２．モスクワに住む日本人の子供たちの現状

○ストレスを抱える子供たち

ソ連時代、ＫＧＢなどによって外国人の動きは常に監視下にあり、プライバシーの尊重という面では問題があるが、国の監視下にあるという意味では安全な生活を送ることができていたとも言える。しかし、共産主義の崩壊で自由主義社会となり、治安面では悪化していることは

否めない。これには、貧富の差が顕著になってきたことも関連していると言えるのではないだろうか。
　我々日本人も、犯罪に巻き込まれる危険を常に感じずにはいられない。そのような社会での生活なので、子供たちが自由に屋外で遊んだり、買い物に出かけたりすることは危険をはらんでいると言える。日本のように放課後や休日に自由に屋外を走り回ったり、自分たちだけで行動することはできないため、心的なストレスが蓄積していると考えることができる。また、小さな社会での人間関係、特に友だちとのかかわりにおいても関係を崩すことは貴重な仲間を失うことになるわけで、そういう点でも気をつかうことが多いと思われる。

３．モスクワ日本人学校の役割
（１）学校に求められるもの
　先に述べたように、モスクワに住む子供たちは、日本で生活する児童・生徒より多くのストレスを感じて生活していると思われる。学校教育の中でそれらに配慮し、子供たちが楽しく生活していくためにどのような対策が必要なのかを考えていく必要があると言えるだろう。
　また、多くの子供たちは３年前後で日本に戻る。そのときに、上手く適応していけるのかという不安を抱く子供たち、保護者が多い。実際、帰国後しばらく適応できずに学校を欠席する子もいるという報告もある。
　それらの要素から､モスクワで生活することをポジティブに考えていけるようにすることや、不安を乗り越えていけるような力をつけること、日本の学校でも適応できるように仲間とのふれあいや学習面での工夫をしていくことを大事にしている。

（２）学校での取り組み
○「育てるカウンセリング」の研究
　２０００年度～２００１年度の２年間、モスクワ日本人学校では、文部科学省の研究協力校の指定を受けて『教育相談』の研究を行った。これは、私たち教員が学校カウンセラーのような役割を果たすと言うことではなく、日常の学校生活や授業において、乗り越えなければならない心的なハードルを自分の力で乗り越えていくことができる力をつけていくという意味での「育てるカウンセリング」についての研究だととらえて頂きたい。
　先にも述べたように、日本国内で生活している児童・生徒よりも不安やストレスを抱えている子供たちが、自分を励まし、仲間に支えられながら活動していることを喜びとし、在外での生活を豊かにしていけるように、研究協力校の指定が終わっても『教育相談』の研究は継続して取り組んでいる。
・２０００年度、２００１年度に道都大学（当時）教官・小澤征司氏を講師としてお招きし、カウンセリングに関する様々な講習を実施した。
（例）
　・ＳＧＥ（構成的グループエンカウンター）
　・傾聴訓練
　・役割演技
　・リラクゼーション
　・アファーメーション　　…など

○独自のカリキュラム
　日本と同じ教育を在外でもというところが基盤にあるが､国内の学校でもそうであるように、独自性をもったカリキュラムを作成し、教育活動にあたっている。特に、地の利を生かした活動を積極的に取り入れようと研究を進めている。
☆ロシア語…小学部（１年～６年）で週１時間実施。現地採用講師による授業。講師は、日本人１名、ロシア人１名。特に日本人講師はソ連時代から長く日本人学校に協力をして頂いている。中学部の総合的な学習の時間にも協力をいただいている。
☆楽しい英会話…小学部（１年～６年）で週１時間実施。中学部英語教諭、学級担任、ネイティブ・ティーチャーで実施。ネイティブが主となり、英語教諭が必要時に日本語で補足、学級担任は個別の補助に当たる。
☆地域の施設を用いた学習
（例）
　・古生物博物館…中学部理科で利用。
　・クレムリン…小学部総合的な学習の時間で利用。
　・トレチャコフ美術館、プーシキン美術館…中学部美術で利用。

・消防博物館…小学部社会で利用。
☆現地校、他国校との交流
・ロシア１２３９番校…定期交流を実施。学習発表会にも招待で参加いただく。
・イタリア校、フィンランド校、スウェーデン校…同校舎にあり、イベント的に交流。
・ブリティッシュ・スクール…中学部で交流。授業に参加させて頂くこともある。主に英語に慣れ親しむことを目的とする。
☆職業体験…中学部で実施。進路指導の一環として、現地在中の日本企業を中心に協力を呼びかけて実施。（総合商社、報道、飲食店など）
☆体験学習
ニンジン掘り、かぶ掘り、ななかまど採り、イチゴ狩りなど。一昨年度より、ソフホーズ・レーニンにて、イチゴ狩りを実施。実際に労働として体験し、採ったイチゴの１割を労働報酬としていただいた。
☆写生会
現地のすばらしい自然や施設（建造物）をモチーフとして全校で実施。現地理解と校外での活動を主な目的とする。
☆芸術鑑賞教室
ロシアの民族音楽や踊り、劇などを鑑賞する。学校に小さな楽団、劇団を招いて行っている。子供たちもよく知っているロシアの曲なども演奏していただいて一緒に歌ったり、楽器にふれさせて頂いたりした。

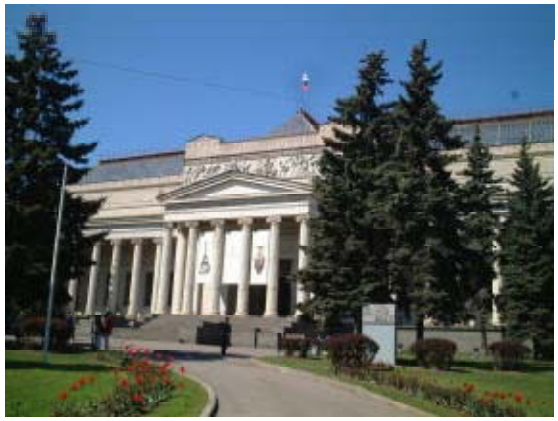
週時数等についても独自のカリキュラムを組んでいる。現在は、日本に住む子供たちに比べ日本語にふれる機会が少ないという点、外で自由に遊ぶ機会が少なく体力的に不安（新体力測定の結果等の比較から）があるという点から、国語と体育は比重をやや高く設定している。（全体の授業時数も日本の標準授業時数を下回らないように日程を組む。）
また、昨年度は指導計画に合った評価規準・基準表を作成して授業改善に役立てようと取り組んだ。

○ナレッジマネジメントによる情報の共有
日本人学校は、３年前後の任期で教員が入れ替わるため、継続した取り組みに不安が残る。児童の実態や社会の変化に対応していくという点では、新しい取り組みが繰り返されることはよいことではあると考えるが、それまでどのような取り組みがなされ基盤となっているかを知るためには引き継ぎが重要となる。パソコン回線等が改善されてきたことで、パソコン室内はもとより、職員室の教員のパソコンもＬＡＮでつなぎ、さまざまな文書や情報をサーバーに蓄積し、共有できるような形を取るようになった。情報のナレッジは、同時に事務的な作業の効率化にもつながった。
（３）実践
自分が取り組んできた実践としては、３年間のうち２年間に渡って図工・美術の専科をさせていただいた（３年目は小１担任と中学部美術・技術担当）こともあり、教科の取り組みに関しての比重が大きい。
赴任当時は、図工・美術の年間指導計画がなかったため、自分で９年分の計画を立てた。作業としては骨の折れる物であったが、小中の発達段階と系統性を考えて組むことができ、自分自身の勉強にもなった。また、地域の独自性を生かすためロシアの民芸品などもカリキュラムに盛り込むため、自分なりの調査・学習を行えたことも収穫だと考えている。具体的には、木材を使った民芸品（ヤイツォー、マトリョーシカ、パレフなど）や美術館を利用した鑑賞学習などである。鑑賞は主に中学部を対象としたが、美術館学習についてはプーシキン美術館を使っての西洋絵画の学習、トレチャコフ美術館を使ってのロシア絵画の学習を行った。

【（財）美術教育振興会『教育美術』への原稿から】
在外にあるという点で、日本国内と同じような材料を利用できないというデメリットはありますが、逆にここだからできるという題材を設定することもできます。例えば、市内の美術館にでかけるとロシアや近代西洋絵画の作品を鑑賞することができます。モスクワ市内には数多くの博物館や美術館があり、とても安価な入場料で鑑賞することができます。プーシキン美術館は美術教育を意識した施設で、貴重な絵画作品の他に、レプリカとは言え代表的な彫刻なども数多く鑑賞することができます。本校では、中学部を中心に美術館での鑑賞学習を指導計画に入れて実践しています。
また、小学部ではロシアの伝統的な工芸品を題材にした学習を行っています。実際に自

分たちで工芸品づくりに取り組むことで、文化や歴史に目を向け、現地理解を深めることもねらいとしています。例えば、タマゴ型の飾り（ヤイツォー）やマトリョーシカ、飾りを施した箱、木製のおもちゃなどです。題材によっては、ロシア人の方をゲストティーチャーとしてお迎えし、工芸品にかかわるお話や作り方を教えていただいています。その材料となるものは、市内の自由市場に行くと格安で購入することができます。ロシアの工芸品は、少なからず日本からの影響を受けているそうで、結果的に日本の文化に目を向けることにもつながると思います。

トレチャコフ美術館



プーシキン美術館

【雑　感】

平成１３年１月。モスクワ派遣を告げられて、正直なところ困惑した。共産主義、閉鎖的、ＫＧＢ、暗い…など、ロシアについての知識がほとんどなく、イメージもマイナス面ばかりだったからだ。派遣期間を過ごし終えた現在、その考えの半分は正しく、残りの半分は間違えであったという感想をもっている。

腹をくくり、「どうせならいろいろなところを見てこよう。」という意識で新生活を始めたが、日本の常識では道理が通らない面が多々あった。日常生活は常に危険と隣り合わせという感じで、常に「自分の身は自分で守る。」ということを考えなければならなかった。身につけた貴重品や食べている食べ物を無理矢理奪い取ろうとする人（ジプシーと呼ばれる不定住者らしき人々）、「金をくれ。」とせがむ酔っぱらい。年金だけでは生活ができなくなった（ソ連崩壊に伴い改革を余儀なくされた年金制度のため）お年寄りや戦争で手足を失って働けない人たちも物乞いをしている。（バックにマフィアが付いていると言われているが…。）家の使用人とグルになって強盗をする人間もいれば、外国人排斥をうたって暴力を振るう“ ネオ・ナチ ”のグループもいる。また、難癖を付けて賄賂を要求する警察官もいる。（現在、政府は警察官の賄賂の要求や不正等を取り締まる動きを強く打ち出しており、警察官による犯罪は減少していると聞く。）警察が信用できない社会は怖い。言葉の不自由さも手伝って、生活面でのストレスは日本の比ではなかった。過剰ともとれなくないサービスを受けている我々日本人にとって、まるで『売る気がない？』という感じの店員の無愛想さにも気が萎えた。知人は、スーパーで買い物をした際、わずかだがお釣りが足りなかったことに気付き店員に言ったところ、レジの小銭をばらまかれ、「好きなだけ持って行け！」（というようなことを言っていたと思う）という対応をされたと聞く。私は原因不明の足痛に悩まされ、病院にかかったことがあった。同僚も同じ症状になったばかりだったから、おそらくストレスからくる痛風だったと考えていたが、ロシア人医師の診断は骨折。ギブスが必要だと言われたが断固拒絶して痛み止めの薬だけをもらって帰宅したことがあった。（後日、カナダ人医師の診断で「おそらく痛風じゃないか…。」ということに落ち着いた。）

共産圏では、外国人の行動を常に監視されているというようなことを聞いたことがあったが、自由主義化された現在でもその痕跡が全くなくなっているわけではない。私たちは

住居に関してもかなりの制限が施され、高額の借用料を請求される。我々が居住していたアパート（ドーム）には電話回線の盗聴器が付けられていた。（現在どのような利用価値があるのかは不明だが。）こうしたことはまるで映画の中の架空の話のように思っていたが、現実に目の前で起こっていることであり、自分のイメージを遙かに超えた驚きであった。

先にマイナス面を並べたが、それとは逆に、新鮮で魅力を感じた点も多々あった。すばらしい文化とそれを大切にする精神、そしてロシア人の暖かい人柄などである。音楽や文学に疎い私でも、チャイコフスキーやハチャトリアン、トルストイやドフトエフスキー、チエホフといった名前ぐらいなら知っていたし、バレエやオペラの殿堂「ボリショイ劇場」の名も耳にしたことはあった。実際、数々のコンサートやバレエなどが連日催されており、市民が足を運んでいる。

私は学生時代、教員養成課程の美術科に所属（日本人学校では、２年間図工・美術の専科）をしていたこともあり、美術に大きな関心を抱くことができた。サンクトペテルブルグ市のエルミタージュ美術館は世界でも有数な素晴らしい美術館であることはもちろんだが、そのほかにもモスクワ市内はもとより国内各地に美術館や博物館が点在する。オランダ美術に端を発して収集されていった西欧美術品も素晴らしいが、ロシア美術の素晴らしさにも目を奪われた。１９世紀、「西欧に学べ」をスローガンにヨーロッパの技術を取り入れていた時代において、美術もヨーロッパの物がよいとされ、留学などをさせて取り組ませていた。その反面、ロシアの生活や社会、自然を題材にして作品づくりにかかわっていた人たちが、ロシアの芸術を大切にしたという商人と手を組んでその素晴らしさを国内で訴えて各地で展覧会を開いていた（移動展派）。私はその時代（１９世紀後半）の絵画に心を動かされ、サンクトペテルブルグに行った際にはロシア美術館に、モスクワ市内ではトレチャコフ美術館へよく足を運んだ。料金も格安で、せいぜい２００円程度の料金で堪能できた。当然だが、市民も大勢詰めかけている。学生が一生懸命メモをとったり、老人が紙切れに模写をしている姿もよく見かけた。また、市の中心を流れるモスクワ川の河畔では、大勢の画家が作品を販売している（もちろん立派なギャラリーでも絵画の販売を行っているが…）。それをのんびり見に行くのも休日の楽しみの一つだった。

作新学院大学教授：小林和男氏が著書の中で、トレチャコフ美術館の学芸員の女史とお話をしたエピソードを紹介している。ロシア崩壊で学芸員の給料が激減し、生活が苦しくともその方は仕事を変えようとは思わないと言っていたそうである。それは、美術館に所蔵されている作品達を愛しており、生涯その作品の管理・展示等をして過ごしたいという思いが強いからだということだ。その女史だけではなく、ロシアの人たちは心底芸術を愛していることを強く感じた。それは美術だけではく、音楽やバレエ、文学などあらゆるジャンルにおいても言えることなのだろう。

摩訶不思議な国ロシア。芸術を愛する国ロシア。３年間の経験は自分にとって大切な財産になった。そして自分にとって第２の故郷にもなった。もう一つ、「モスクワで生活できてよかった。ロシアという国が好きになった。」ということを付け加えておきたい。

参　考

・外務省ホームページ
・「プーチン」　著：池田元博氏
・「ロシアの仕組みが２時間でわかる本」
・「エルミタージュの緞帳」　著：小林和男氏
・北海道新聞